

稲 グ リ 新 聞

〈発行〉 早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ
〈編集〉 実浩 郎 豊了
水田 信二
清徳 原 木
額 佐 川
石 川
〒168 東京都杉並区高井戸東
4-11-5-203 徳田浩方
TEL 03-3333-0437
(毎月1回発行) 年間購読料1500円

出発 4/28 (金)・帰国 5/7 (日)
吉村作治教授も同行決定

イタリア&エジプト '95海外演奏旅行 詳報

愛唱歌中心のプログラム構成、地方在住メンバーも参加を!!

台湾、旧ソ連、北欧・バルトに続くの稲グリ海外活動は、来年(一九九五年)のGWを利用してイタリア、エジプトで演奏会を行うことに確定した。演奏地はミラノとカイロの2カ所。現地の人々との交流や観光スケジュールもたっぶり盛り込まれ、稲グリにまた新しい歴史の1ページが加わる。目標オンステムメンバーは70名。今回は愛唱歌中心にステージを構成する。日頃、演奏活動に参加されていないメンバーも、地方在住の方々もぜひ参加をご検討下さい。

スケジュール

- ① 航空便、宿泊ホテルは未確定部分があり、今後の掲載はしません。行動予定も、今後参加者の意向も伺いながらさらに検討を加えます。
- ② 4月28日(金)「出発」
成田を昼頃出発のミラノ直行便。時差がマイナスイラスト(サマータイム)でこの日の夕方ミラノに到着します。(フライトは10時間余)。ミラノ泊。
- ③ 4月29日(土)
ミラノ演奏会(マチネー)。会場はアルチェントロ・カルチュラレフェーデレ(日本語で中央カルチャーセンターに当たる)。演奏会終了後、同会場で懇親パーティがあり、メンバーは10時からホールで練習。同行家族は市内観光(演奏会からは同一行動)。ミラノ泊。
- ④ 4月30日(日)
専用バスでミラノ市内を観光。夕方専用フライトでローマへ移動。ロー

- ④ 5月1日(月)
マ泊。終日ローマの観光を楽しみます。夕方フライトでカイロへ直行。同日夜到着。カイロ泊。
- ⑤ 5月2日(火)
カイロ演奏会。会場はカイロ・オペラハウス・メインホール。演奏会終了後、懇親パーティがあります。同行家族は朝からカイロ市内観光、演奏会場で合流。メンバーは練習。カイロ泊。
- ⑥ 5月3日(水)
専用バスで三大ピラミッドをはじめ、スフィンクスから、ギザ、メンフィス、サッカラムまで観光の足を伸ばします。夜のフライトでカイロからルクソールへ移動(約1時間)。
- ⑦ 5月4日(木)
終日、専用バスで見所いっぱい。ルクソール周辺の観光。イルミネーションショーも楽しむ予定です。ルクソール泊。
- ⑧ 5月5日(金)
午前中のフライトでアスワンへ飛び(約1時間)、夕方までアスワンの観光を楽しみ、飛行機でカイロに戻ります(約2時間のフライト)。
- ⑨ 5月6日(土)
午前中のフライトで帰国の途につきます(ヨーロッパの都市を経由予定)。
- ⑩ 5月7日(日)
午後、成田へ帰ってきます。10日間の充実した旅はこれで終了となります。

費用は42万円
若手にはクラブで補助金

旅行代理店は3社から見積もりを取った結果、これまで稲グリ海外旅行の実績経験が豊富なエムオーエアシステムに決定。参加費は一人42万円に確定した。なお、若手の参加を促進する意味で、55卒は35万円、60卒は33万円、63卒は30万円、66卒は25万円とし、差額をクラブで補助することになった。現在まで参加申し込みメンバー数は43名。殆どが30年代卒で、若手名の20年代

に40年代卒が加わる年代構成だが、演奏面ではやはり若い声も欲しい。現役時代に海外演奏旅行を体験した人もそうでない人も、若手にはこの特典をフルに活用してもらいたいところ。幹事団ではオンステムメンバーの目標を70名におき、定期演奏会終了直後から積極的な呼びかけを行うことにしている。



長沢護団長(右)、吉村作治助教(左)とピアニストの江藤純子(下)

今回は企画段階から演奏曲目を愛唱歌中心に構成しようという考え方をしている。演奏旅行のためのハードな練習は避けて、日頃演奏活動に参加していないメンバーも行けるようにしよという訳だ。現在候補に上がっている曲目は「月光とピエロ」全曲、黒人霊歌、日本民謡、稲グリ愛唱歌など、ワセグリOBなら一度は歌ったことのある作品ばかり。それに、今回の定演で歌う「オペラ男声合唱曲」2曲と、日本と訪問国で親しまれている最近の曲をアレンジしてプログラムに入れれば、お客様にも楽しんでいただけるだろうと考えている。

指揮者は未決定ながら参加の意向が強い堀俊輔さん(50卒)と、今回の団長を務める長沢護さん(36卒)がカイロではカイロ交響楽団指揮者のエル・シ・シ氏が、オペラ曲を振って下さる可能性もある。ピアノは江藤純子さんが同行して下さる。かつて稲グリがサントリールホールの定演でお世話になった音楽性豊かなピアニスト。たまたまご主人が現任友商事務イタリアの社長で、江藤純子さんもミラノに滞在することが多く、今回のミラノ演奏会の基礎がここ、江藤さん自身のお客様も多く、江藤さんのピアノをフィーチャーして、ポピュラーな1ステージも確定している(構成は江藤さんに一任)。

団長は長沢護さん(36卒)
吉村作治助教も同行

今回の団長は長沢護さんに決定し

演奏会には両地とも現地日本人会と稲門会が推進、大使館・総領事館も後援予定

ミラノ・カイロとも日本企業のブランチが多く、在住日本人はそれぞれ各企業の中核者で構成する日本人会(商工会議所)及び稲門会が推進して下さる。目下打ち合わせ中だが、我々の演奏会を主催して下さる可能性が強い。それぞれの地区で活躍している同窓の方々も懇談できるのも大きな楽しみである。在エジプト日本国大使館、在ミラノ総領事館には後援を引き受けて頂くことになろう。今回も又、合唱を通して様々な新しい出会いがありそう。

【ハミダシお詫び】吉村先生同行はビッグニュースで、この号外もトップの見出しに。当然教授だと思っただけで毎日新聞へ写真を借用に行ったら「あの方は助教教授のはず」だと。今回は見出しを地獄製版したため、定演当日配布のためには訂正不可となりました。稲グリ演奏旅行の助(すけ)と、教授ということでご容赦のほどを。吉村助教教授は「〇〇から演奏まで」大変な歌自慢でもあるとか。

ミラノ・カイロで演奏会 多彩な観光スケジュールもあります

イタリア

演奏会場のアルチェント・カルチエレ・フェーデレは、ミラノのほぼ中央にあって最も聴衆が集まりやすい気楽なホール。キャパは五〇〇と少ないが、すでに席をキープすべき同行家族数の問い合わせがあるなど、満席になることは確実らしい。在住日本人の方々がイタリアの知人を誘って来るケースが多いだろうとの予測だ。何しろオペラのアリウからの予備だ。素人でもアからカンツォーネまで、反面自己主張が強いソロが主流で合唱は必ずしも得意ではないようだ。我々のハーマニーにどんな反応を示してくるかも興味深い。すでにイタリア三井物産社長の鈴木正孝さん(43)商卒・現ミラノ商工会議所会頭)とも加藤晴生幹事(37)卒)がコンタクトを取り、ミラノ側窓口責任者2名も決定して具体的な打ち合わせに入っている。リラックスした雰囲気でも、演奏を楽しめそうだ。

永遠の都ローマ

4月30日の夕方、我々はミラノから空路ローマに到着する。永遠の都と呼ばれるローマは、古代から現代に至る歴史と伝説の遺産があらゆる場所に息づいている。とにかくローマほど見所の多い町は世界でも類がない。キリストの生まれる前の古代ローマ、中世、ルネッサンス、キリスト教の新しい小国バチカン市国、エウル。古代と現代が見事に同居している。例のトレヴィマンの泉に「ローマの休日」の甘いロマンの世界にひたるもよし。1日の観光ではとても全部は無理だろうが、それでよい。パンテオン、サン・ピエトロ寺院、終着駅、カラカラ浴場や、映画でおなじみの広場、通り、門、橋、寺院などの効果的に回れるだろう。特定の場所を目的にするのも良いかもしれない。いざにしてみよう。最高に素敵で、稲グリ版「ローマの休日」を、全員で演出したいものだ。

2日間滞在するミラノは、フランス国境に近いイタリア第2の都市でイタリア経済の中心地。イタリア人は「ミラノが稼いでローマ(政府)で使う」とジョークを口にするほど。ここに主要な金融機関や会社の本社などが集中している。日本の商社などが事務所を置いているのもこのミラノ。同時にミラノには、我々にとつて最大の憧れであるオペラの殿堂スカラ座をはじめ、長い歴史を誇る建築や美術品など見るべきものがいっぱいある。レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」も、市内中央のサンタ・マリア・デル・グレツィエ教会にある。

エジプト

5月2日の朝はカイロで迎える。カイロで初めて目覚める朝は極めて感動的だというが、うんと早起きをしてみよう。この日はオペラハウスでの演奏会。前日までの観光気分を一一新して、メンバは午前中から練習に打ち込む。カイロ交響楽団のエル・シ・シ氏が指揮して下さることになると、練習はますます熱が入ることになる。カイロでの会場に関する文化センターの大内晃一等書記官から加藤幹事宛にこんな書簡が届いた。「(前略)過日は貴門門グリウラブのカイロ公演につきまして片倉大使宛にご丁寧なお手紙をいただきました。ありがとうございます。ご承知の通り、カイロ・オペラハウスは日本エジプトの交流の象徴ともいえるべき文化施設であり、そのメインホールに伝説ある貴門グリウラブを迎えてコンサートが行われることは、両国間の文化交流にとっても大きな意義を有するものと喜んでおります。さて、貴信にてご依頼の件ですが、オペラハウス宛の書簡の件ですが、10月23日、私が理事長宛に「DR. MASSEI」の件を、私ハウス理事長宛に「DR. MASSEI」の件を、口頭で日程確保を依頼いたしました。DR. MASSEIの件は、95年5月2日のメインホールはすでに稲門グリウラブ用にリザーブされておられるとのことでした。貴殿のご参考までに、95年のオペラハウスのプログラムを該当ページ(写)を同封いたします。

アラブ圏最大の都市カイロ

この日は朝から演奏会までの時間を、ご婦人たちはたっぷりカイロ市内観光とショッピング。カイロは悠久の川ナイルが長い年月をかけて形造ったデルタ地帯に生まれて発展した大都市で、大変エネルギーが豊富な街。エジプトならではおみやげが豊富にあるし、交渉によってはどんな安くするというから、同行奥様の腕(?)を發揮する絶好のチャンスだ。

ここには有名なエジプト考古学博物館がある。20万点ともいわれる古代エジプトの遺産が収蔵されているというが、吉村助教という世界一の案内人がいるから大船に乗ったつもりでいけば良い。ツタンカーメンの部屋は絶対に見逃せないところ。カイロは人口一〇〇〇万の過密都市。新市街は近代的なビルが立ち並び、対照的なのがイスラム地区で、時代を逆戻りしたと錯覚するエキゾチックなエリアである。さらにカイロ発祥の地であるオールド・カイロにも、チャンスがあったら出掛けた。

演奏会の翌日からたっぷり3日間もエジプトを観光する。吉村助教と一緒にだから極めて実り多いツアーになるだろう。一応、現簡単に予定しているコースについて、簡単に概略だけ触れておこう。地図で確認されておくと良い。

エジプト観光はたっぷりワルソールにも足をのびます

ピラミッドやスフィンクスがあるところ。メンフィスでは石灰石でできた15メートルのラメセス2世巨像を見ることが出来る。サッカラは古王国時代の遺跡の宝庫で、多くの墓が点在している。珍しい階段ピラミッドもある。

カイロに戻った我々は、その日のうちにカイロから空路で約1時間、ナイル川沿いに南下してルクソールへ移動し、その夜はルクソール泊まりとなる。

以上が今回の演奏旅行概略。もちろんフライトなどの都合や参加者の要望で今後変更もあるが、演奏会場にもエジプトは確定している。イタリア編纂子が、充実した旅を想像しないが、出張先で取り急ぎまとめた原稿なので、誤り部分があったらお許し願いたい。(編集室 徳田浩記)

【ハミダシ情報】K藤剛腕幹事は、旧ソ連、北欧・バルトに続いて今回も国際文化交流基金を申請予定。「2度あることは3度」になることが予想されるが、我々も国際文化交流の大役を前回以上に立派に果たしたいものだ。